

令和7年度
学校評価報告書



山梨市立笛川小学校

令和7年度 学校評価について

笛川小学校

1 学校評価のねらい

- ① 各学校が、自らの教育活動その他の学校運営について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価することにより、学校として組織的・継続的な改善を図ること。
- ② 各学校が、自己評価及び保護者など学校関係者等による評価の実施とその結果の公表・説明により、適切に説明責任を果たすとともに、保護者、地域住民等から理解と参画を得て、学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進めること。
- ③ 各学校の設置者等が、学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備等の改善措置を講じることにより、一定水準の教育の質を保証し、その向上を図ること。

※文部科学省「学校評価ガイドライン（平成28年改訂）」より

2 根拠法令等

○学校教育法

第42条 小学校は、文部科学大臣の定めるところにより当該小学校の教育活動その他の学校運営の状況について評価を行い、その結果に基づき学校運営の改善を図るため必要な措置を講ずることにより、その教育水準の向上に努めなければならない。

第43条 小学校は、当該小学校に関する保護者及び地域住民その他の関係者の理解を深めるとともに、これらの者との連携及び協力の推進に資するため、当該小学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を積極的に提供するものとする。

○学校教育法施行規則

第66条 小学校は、当該小学校の教育活動その他の学校運営の状況について、自ら評価を行い、その結果を公表するものとする。

2 前項の評価を行うに当たっては、小学校は、その実情に応じ、適切な項目を設定し行うものとする。

第67条 小学校は、前条第一項の規定による評価の結果を踏まえた当該小学校の児童の保護者その他の当該小学校の関係者（当該小学校の職員を除く）による評価を行い、その結果を公表するよう努めるものとする。

第68条 小学校は、第66条第一項の規定による評価の結果及び前条の規定により評価を行った場合はその結果を、当該小学校の設置者に報告するものとする。

3 学校評価の実施手法

- ①自己評価・・・教職員による評価
- ②学校関係者評価・・・学校関係者評価委員会の組織（学校運営協議会委員14名）
- ③児童・保護者アンケート・・・自己評価を行う上で、児童・保護者を対象とするアンケートにより、児童・保護者の考えを把握する。
- ④第三者評価・・・第三者（当事者・関係者でない者）による評価
第三者評価→学校とその設置者が実施者となり、学校運営に関する外部の専門家を中心とした評価者により自己評価・学校関係者評価の実施状況も踏まえつつ専門的視点から評価を行うもの。

4 学校評価の進め方

- (1) 教職員・児童・保護者アンケートを実施し、結果の考察を行う。
- (2) 改善点を明確化・焦点化し、改善策を立案し実施する。
- (3) 設置者（市教育委員会）へ報告する。

ア→アンケート実施 分→教職員による共有・分析

月	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
教職員	▲	ア	分				▲		ア 分 ▲	報告
児童	生活ア	分			生活ア	分	ア	生活ア	分	
保護者					ア分					

学校運営協議会（▲）6月、12月、2月

○担当（提案・配布）

- ・自己評価（教職員）・・・教頭
- ・保護者アンケート・・・教頭
- ・児童アンケート・・・教頭 児童・保護者アンケート結果を保護者に公表（12月）
- ・生活アンケート・・・生徒指導主任

5 評価項目について

校訓 「自主自立」

学校教育目標 「地域に誇りをもち、豊かに自立する子どもの育成」
みんなの合い言葉 「笛川の子、かしこく なかよく たくましく」

教育方針

- 地域とともに子どもを育てる教育（笛川小・中学校コミュニティ・スクール）
- ほめて育てる教育（自己肯定感の育成）
- 「わかる・できる」授業をめざす教育（確かな学力）

めざす子どもの姿

- 自ら考え表現し、学び合う子ども 〈かしこく〉〈知〉
- 自他のよさを認め、友達を思いやる子ども 〈なかよく〉〈徳〉
- 命を大切にし、進んで体を鍛える子ども 〈たくましく〉〈体〉

学校教育目標の実現に向けて、「確かな学力の育成」「豊かな心の育成」「健やかな体の育成」「地域とともに子どもを育てる教育」の4つの観点について、教職員、保護者、児童がそれぞれの立場から評価できるよう、項目内容を整理した。

6 評価結果（児童・保護者アンケート）について

○児童アンケート

- ・12項目のうち11項目が、80%以上の肯定的評価となった。しかし、昨年度と同様に「読書活動」がやや低い評価となった。

○保護者アンケート

- ・13項目のうち8項目が、80%以上の肯定的評価となった。しかし、昨年度と同様に「家庭学習」「読書活動」については、低い評価となった。
- ・「楽しく学校に通っている」「学校や家庭に居場所があり頑張っている」「地域の教育資源・教育人材を活用している」「学校に様子を家庭に知らせている」については、90%以上の肯定的な評価となった。

○領域ごとの結果分析と今後の取組について

【確かな学力】の育成について

・「家庭学習」の項目では、児童の評価と比べて、保護者の評価が低くなっている。宿題を面倒だと言う、学習よりも遊びを優先するなどの意見があった。家庭学習の習慣化に課題が見られるので、宿題の出し方やマイノートの取組の工夫など、家庭と協力し家庭学習の習慣化を推進していく。

【豊かな心】の育成について

・「いじめへの対応」に関する保護者評価では、教職員と児童との間で信頼関係が築かれていて、細かく見てもらっていると好意的評価が昨年度より大幅に増えた。

・「自信をもって頑張っている」の項目では、保護者・児童とも約90%が肯定的評価をしている。責任感を持って係活動や委員会活動に取り組んでいることや、良好な友達関係を築いていることが、高い自己肯定感につながっている。引き続き、様々な活動を通して、自己肯定感を高めていく。

・読書活動とあいさつに関する評価では、児童は高い評価となっているが、保護者の評価は低くなっている。学校ではよく読書をしているが、家庭では、漫画や動画が多いや自分からあいさつができていないという記述が見られた。今後も読書やあいさつの取組を継続して、家庭の協力のもと読書習慣及びあいさつ習慣の定着を進めていく。

【健やかな体】の育成について

・歯磨きに関する評価では、保護者、児童共に肯定的評価が85%以上と高く、2年間の取組の成果が現れている。しかし、昨年度同様に朝起きれない児童や、就寝時間が遅い児童が一定数いることが、保護者の評価から分かった。今後も、基本的な生活習慣の定着に向けて、家庭との連携を図り、より一層意識を高めていきたいと思う。

・運動する機会に関する保護者評価では、体力アップタイムで持久走や縄跳びに取り組んでいることや、休み時間に外で遊ぶ時間を確保していることから、肯定的評価が多かった。今後も、児童会活動と連携した全校遊びなどを取り入れ、日常の体力づくりに取り組みながら、体力の維持向上を図っていく。

【地域とともに子どもを育てる教育】について(保護者のみ回答)

・地域の人材・資源の活用では、乙女高原学習、田植え、生活科の学習、グラウンドゴルフなど、地域での学習機会が多く、肯定的な評価が多かった。今後も地域のよさや強みを最大限に生かした学習活動を行い、更なる連携を進めていく。

7 学校関係者評価について

○学校関係者評価の実施(笛川小中学校学校運営協議会委員16名による評価)

第1回学校運営協議会(6月20日開催)においてランドデザイン、学校経営について協議を行い、承認を得た。

第3回学校運営協議会(2月27日開催)において、学校評価の結果報告を行った。課題の分析・課題解決のための今後の手だてについて評価をいただき、次年度の笛川学園開校について協議を行った。

○委員の方からの意見

・小学校が実施しているサポートティーチャー(授業補助)のような保護者や地域住民による支援を今後も続けてほしい。また、校庭の除草や登下校の見守りなど、今は実施していない内容についても実施できるとよいと思う。

・ICTの活用が重視されているが、ICTを使うことだけに意識がいくのではなく、書くことをしっかりできるようにさせたい。ICTを道具として活用させることがよいと思う。

・地域と学校が更に結びつきを深めていくために、学校運営協議会の中に「地域学校協働本部」の設置や公民館活動との連携、地域と学校をつなぐコーディネーターの指名などを進め、学校を核とした地域づくりを進めていきたい。

・学校全体のグラフや分析だけでなく、学年ごとの分析を行うことで、改善点が明確になると思う。

・保護者の意見をどう取り入れるのか、保護者と共にどのように教育活動をつくっていくのかが課題である。令和8年度から始まる義務教育学校開設に向けて、開設当初に学校が望む、保護者や地域の姿を示すことが必要であると思う。

笛川小学校学校評価（保護者アンケート）経年比較

（そう思う・ややそう思うの肯定的回答の割合）

単位（％）

No.	項目	R3	R4	R5	R6	R7	平均	昨年度比
①	お子さんは、笛川小学校に楽しく通っている。	94	94.8	95.7	96	93.9	94.9	-2.1
②	お子さんは、学習が楽しいと感じている。	82	79.5	84.3	77	78.6	80.3	1.6
③	お子さんは、積極的に家庭学習に取り組んでいる。	64	64.9	61.8	52	66.7	61.9	14.7
④	笛川小学校はいじめの未然防止、早期発見、迅速な対応及び児童が相談しやすい関係づくりに努めていると思う。	59	47.4	67.9	67	80.7	64.4	13.7
⑤	お子さんは、学校や家庭に居場所があり、「自分はがんばっている」と自信が持てている。				93	92	92.5	-1.0
⑥	お子さんは、進んで読書活動に取り組んでいる。				51	57.6	54.3	6.6
⑦	お子さんは、進んであいさつをしている。	81.5	76.4	86.1	70	75.5	77.9	5.5
⑧	お子さんは、早寝早起き・朝ごはん・歯磨きなど、健康に気をつけて生活している。				77	86.8	81.9	9.8
⑨	笛川小学校は、子どもたちが運動する機会を充分につくっていると思う。	72	68.2	70.9	72	74.7	71.6	2.7
⑩	笛川小学校は、家庭と連携を取りながら、基本的な生活習慣の定着に努めている。				80	81.9	81.0	1.9
⑪	笛川小学校は、地域の人材や資源を活用し、地域のよさを生かした学習活動に取り組んでいる。	68	59.4	77.4	80	91.9	75.3	11.9
⑫	笛川小学校は、地域の方々などと連携し、互いのよさを認め合い、豊かな心の育成を目指して取り組んでいる。				71	86.7	78.9	15.7
⑬	笛川小学校は、学校の取り組みや様子などを家庭に知らせていると思う。	95	81.8	86.1	95	92.9	90.2	-2.1

※R5までは質問項目および回答種別に違いがあります。

笛川小学校学校評価（児童アンケート）経年比較

（そう思う・ややそう思うの肯定的回答の割合）

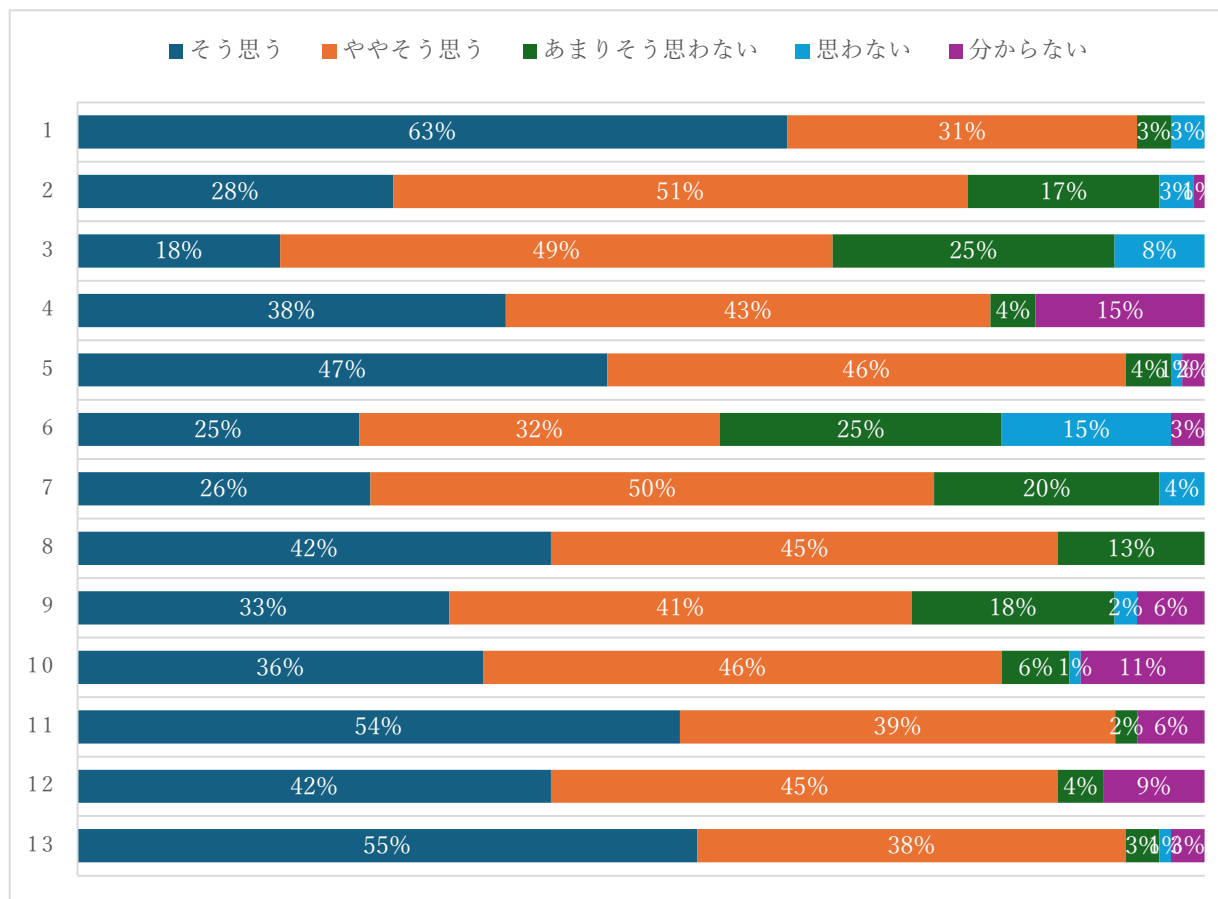
単位（％）

No.	項目	R3	R4	R5	R6	R7	平均	昨年度比
①	あなたは、学校に楽しく通っていますか。				89	92.3	90.7	3.3
②	あなたは、休業中に、自分の考えを話したり、友だちの考えを聞いたりしていますか。				90	92.3	91.2	2.3
③	あなたは、家で毎日学習をしていますか。				81	85.6	83.3	4.6
④	あなたは、友だちと協力したり、なかよくしたりしていますか。				97	94.7	95.9	-2.3
⑤	あなたは、生活や学習のことなど、担任の先生や学校の先生たちに、気軽に相談できますか。				84	84.9	84.5	0.9
⑥	あなたは、学習、生活、運動など、自分でがんばっていると思いますか。				81	94.7	87.9	13.7
⑦	あなたは、学校や家でよく読書をしていますか。				75	72.8	73.9	-2.2
⑧	あなたは、進んであいさつをしていますか。				94	97	95.5	3.0
⑨	あなたは、早寝早起き・朝ごはんなど、生活リズムに気をつけて生活していますか。				88	80.9	84.5	-7.1
⑩	あなたは、好き嫌いなく食事をする、しっかりと歯磨きをするなど、健康に気をつけて生活していますか。				89	89.2	89.1	0.2
⑪	あなたは、進んで運動したり、外で遊んだりしていますか。				89	87.1	88.1	-1.9
⑫	あなたは、家庭で、パソコンやテレビ、スマホなどのルール（使い方や使う時間等）を守っていますか。				89	89.4	89.2	0.4

※児童アンケートはR6から実施しています。

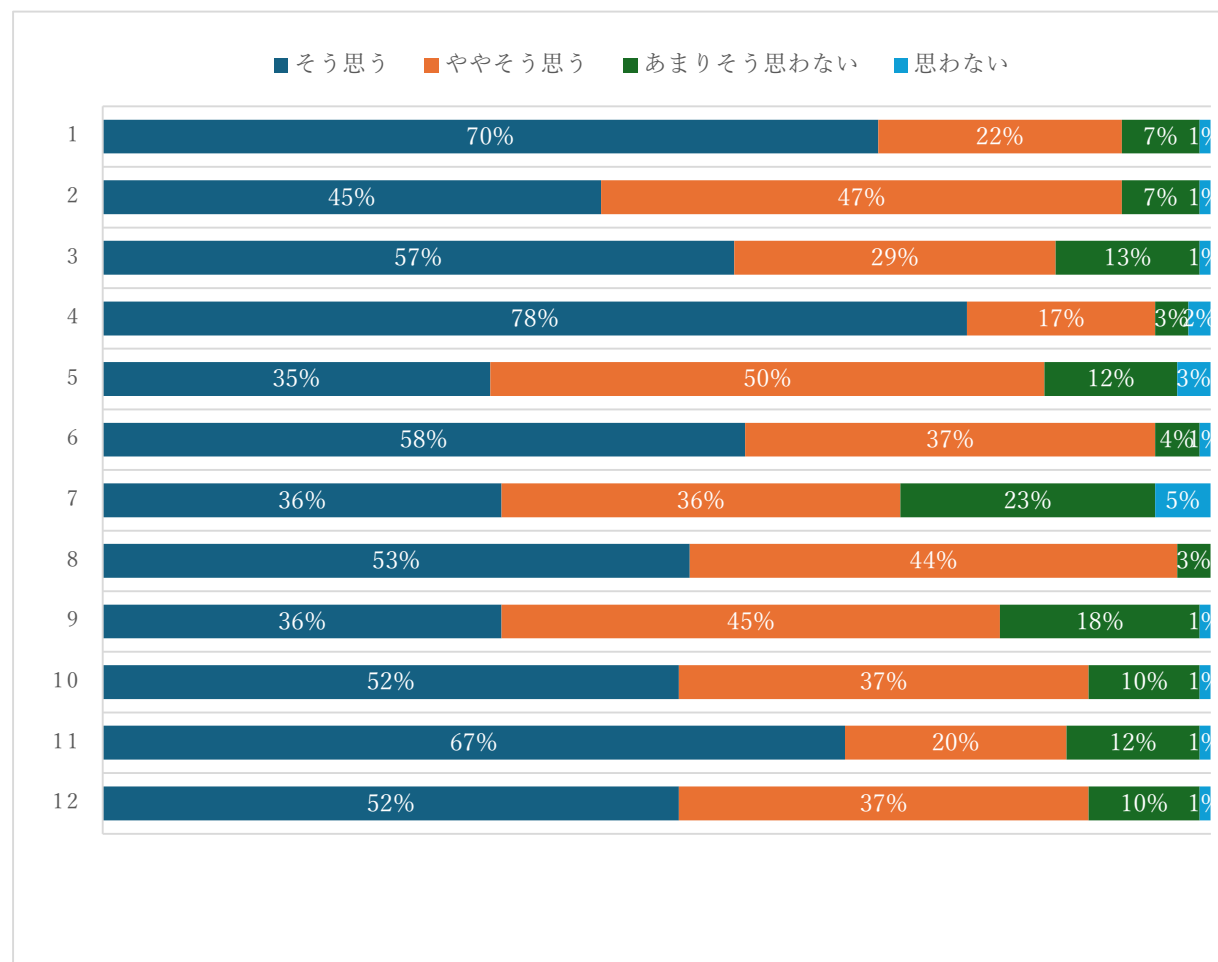
令和7年度 保護者アンケート 令和7年10月実施

No.	項目
1	お子さんは、笛川小学校に楽しく通っている。
2	お子さんは、学習が楽しいと感じている。
3	お子さんは、積極的に家庭学習に取り組んでいる。
4	笛川小学校はいじめの未然防止、早期発見、迅速な対応及び児童が相談しやすい関係づくりに努めていると思う。
5	お子さんは、学校や家庭に居場所があり、「自分がんばっている」と自信が持っている。
6	お子さんは、進んで読書活動に取り組んでいる。
7	お子さんは、進んであいさつをしている。
8	お子さんは、早寝早起き・朝ご飯、歯磨きなど、健康に気をつけて生活している。
9	笛川小学校は、子どもたちが運動する機会を充分つくっていると思う。
10	笛川小学校は、家庭と連携を取りながら、基本的な生活習慣の定着に努めている。
11	笛川小学校は、地域の人材や資源を活用し、地域のよさを生かした学習活動に取り組んでいる。
12	笛川小学校は、地域の方々などと連携し、互いのよさを認め合い、豊かな心の育成を目指して取り組んでいる。
13	笛川小学校は、学校の取り組みや様子などを家庭に知らせていると思う。



令和7年度 児童アンケート 令和7年12月実施

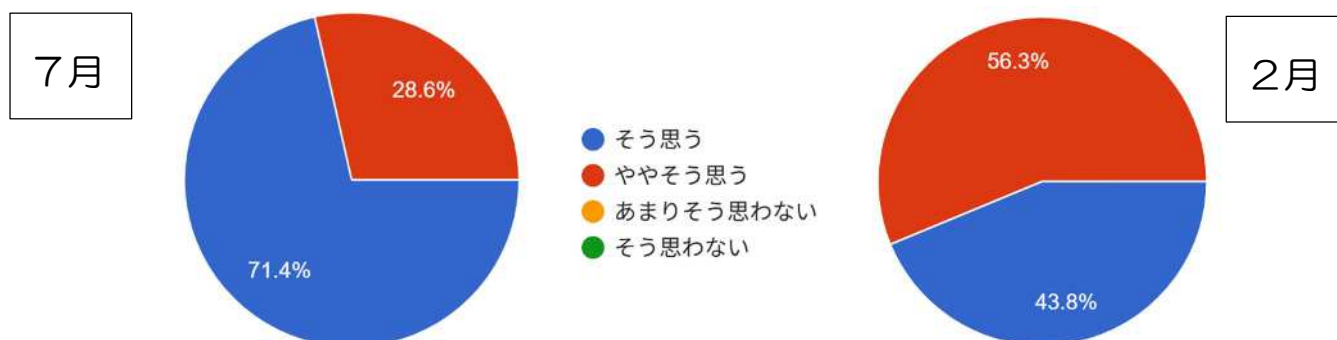
No.	項目
1	あなたは、楽しく学校に通っていますか。
2	あなたは、授業中に、自分の考えを話したり、友だちの考えを聞いたりしていますか。
3	あなたは、家で毎日学習をしていますか。
4	あなたは、友だちと協力したり、なかよくしたりしていますか。
5	あなたは、生活や学習のことなど、担任の先生や学校の先生たちに、気軽に相談できますか。
6	あなたは、学習、生活、運動など、自分でがんばっていると思いますか。
7	あなたは、学校や家で読書をよくしていますか。
8	あなたは、進んであいさつをしていますか。
9	あなたは、早寝早起き・朝ご飯など、生活リズムに気をつけて生活していますか。
10	あなたは、好き嫌いなく食事をする、しっかりと歯磨きをするなど、健康に気をつけて生活していますか。
11	あなたは、進んで運動したり、外で遊んだりしていますか。
12	あなたは、家庭で、パソコンやテレビ、スマホなどのルール（使い方や使う時間等）を守っていますか。



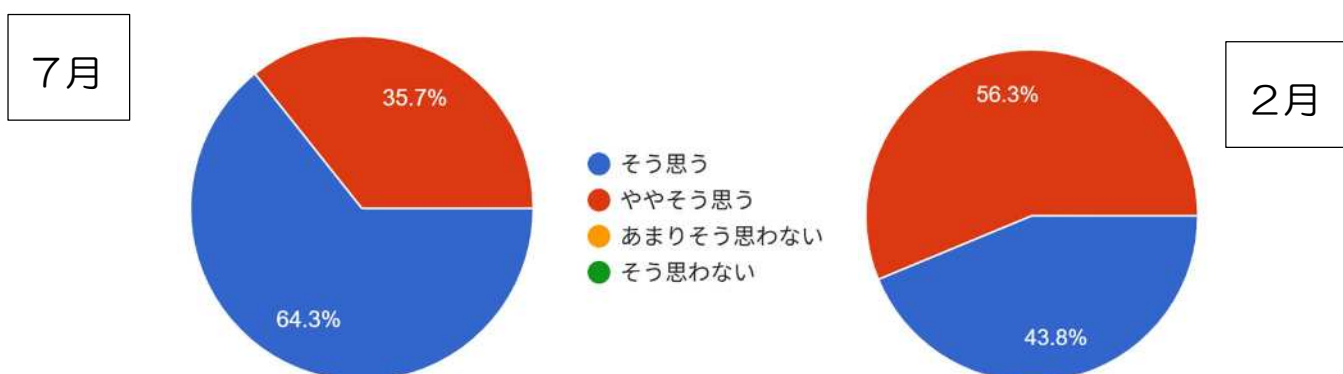
山梨市立笛川小学校 令和7年度学校評価（自己評価）の結果・分析について

1. 学校経営

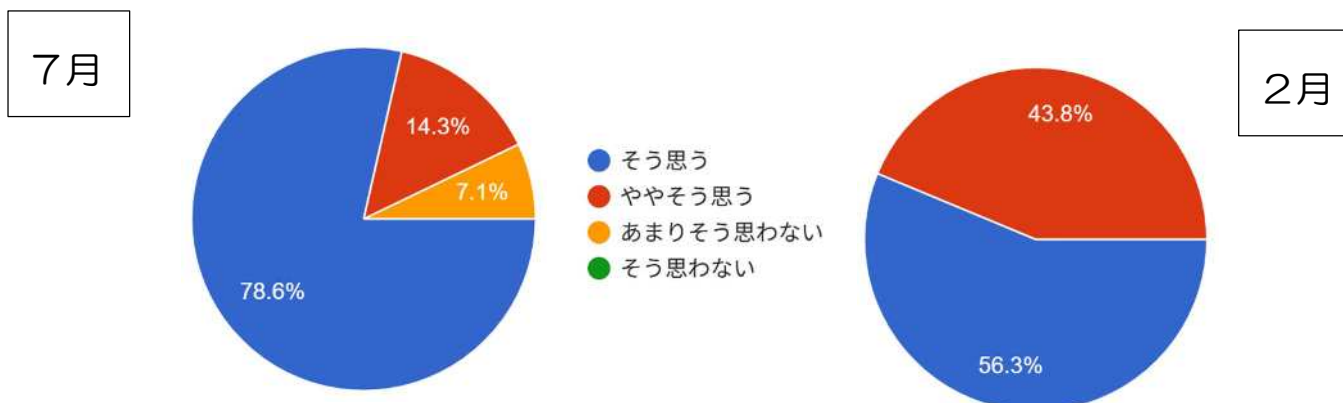
①学校経営構想（グランドデザイン）に基づく教育活動に取り組んでいる。



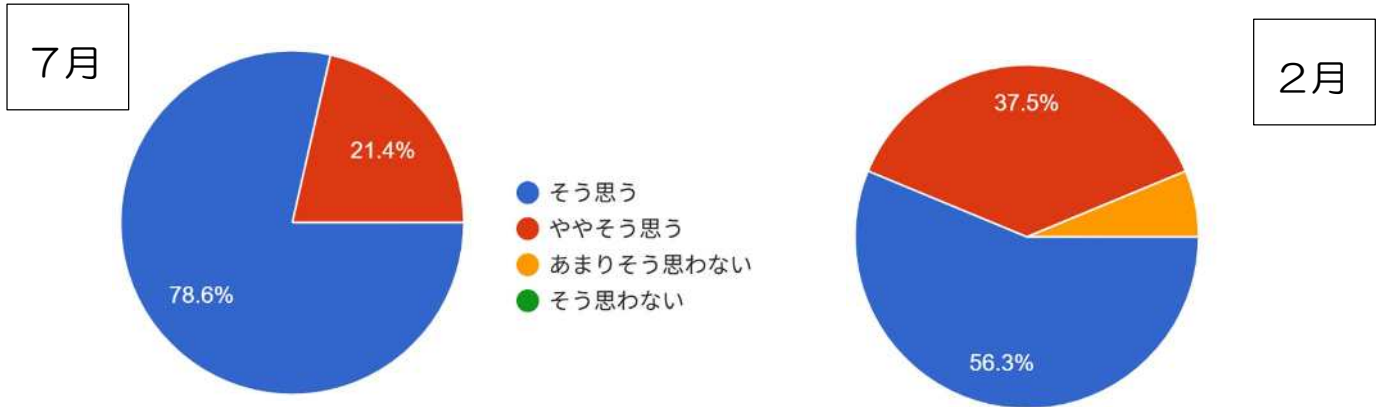
②安心・安全な学校環境づくりに向け、課題把握とその改善を進め、危機管理体制の充実に取り組んでいる。



③個人情報の保護・情報セキュリティの観点から諸表簿や文書、記憶媒体の適切な管理に取り組んでいる。



④特別支援教育の校内体制の充実に向けた取組及び特別な支援を必要とする児童への対応に努めている。



⑤効果的・効率的な業務の遂行に励み、自身の働き方を意識し、業務の改善に取り組んでいる。



【記述（7月）】

- 効率的・効果的な業務の遂行に関しては、個人で努力できる部分とそうでない部分がある。今年度、職員が増えたことや終礼の回数が減ったこと、定時退勤日の設定等により、職員全体の退勤時刻が早まったと感じている。個人での努力も続けていくが、行事の精選や日課表の見直しなど、学校全体での業務改善を今後も進めていきたい。
- ケース会議での情報共有、具体的な支援の方法、必要に応じた外部との連携など児童のよりよい成長を支えるための有効な機会になっている。担任だけで抱えることがないような協力体制が構築されていると感じる。
- 学校安全について日々の戸締まりの徹底や環境整備を意識して取り組むことができた。
- 昨年度よりも、学校がスムーズに動いていると思います。ありがとうございます。
- 今年度、スクールバスに職員も乗車して指導ができ、児童や地域の様子がわかり、大変よかった。同じように集団下校にも引率し、通学路を確認しておきたい。(②)
- 低・中の主任の先生がいて、児童への指導や業務の改善などにおいて、多くのメリットを実感しています。(⑤)

△定時退勤を意識した働き方をもっと意識していきたい。

△ケース会議や校内支援委員会などの会議を多くとってしまい、先生方の負担を多くしてしまい申し訳なく感じています。引き続き、ご協力をお願いいたします。

△集団下校の児童は、バスの児童より、柔軟に下校時刻が対応できると思う。雨の日や放課後の過ごし方等、児童対応が大変である。保護者の理解を図りながら、下校時刻を少し早めてもよいのではないかと。(②)

【記述（2月）】

- ④担任の困り感に寄り添い、お忙しい中ケース会議を開いてくださることに感謝している。大変な児童を一人で抱え込まず、連携して支援に当たることができ心強い。
- ②今年度はバスに職員が乗車し、乗車の指導や地域を知る上で大変よかった。
- 今年度は、特別支援教育に関して、チームとして連携が取れていると感じます。今後は SC や SSW をすべての児童に問題が起きる前の未然防止に対して活用することもできるのではと思います。
- 特別支援を有する児童、通常学級においても支援を有する児童が多い中で、センター的機能を活用した支援学校の先生にアドバイスを頂き、大変有意義な時間となりました。困り感を抱えている児童・保護者が適切な場所で支援が受けられるようにすることも特別支援としての目線は大切にしていきたいです。また、アドバイスをもらい、全職員での共通理解と情報共有が大切だと感じました。
- サービスの面でも、学校安全の面でも、特に大きな事件・事故がなく生活できた。子どものためにも、同僚性の面でも、協力し合うことが大切である。
- △チャットで情報の共有を図っていることは、事前に資料の確認ができること、見通しをもって業務にあたることができること、会議の精選などの観点から、業務改善に大きくつながっていると感じる。一方で、当日になってからの連絡も少なくない。互いに計画的に業務を遂行するために急を要するもの以外は、前日までに共有が図れるとよい。
- △特別な支援が必要な児童に対しての先生方のご理解・ご協力、ありがとうございます。できるだけ早い時期に何らかの支援が必要な児童を洗い出し、保護者を含め適切な対応ができるような体制を整えられるとよいです。
- △県内初の義務教育学校を開校するにあたり、もっと「チャレンジ」の視点を持たなければいけないと思う。これだけ、多くの加配をいただいて仕事ができるのは、「県内初の実践と働き方を考え、県のモデル校として機能して欲しい」という、思いがあることは明らかである。学校として、業務改善をすることの必要性は理解していますが、「チャレンジをしない」「現状維持」では、魅力的な学校作りをすることができないと思う。このまま中途半端チャレンジだと、数年後に加配を切られ、保護者の信頼も得られない、魅力のない学校になってしまわないか危惧しています。学校職員全員が、もっと前向きな気持ちを見せていった方がいいと思う。
- △学期に1回程度、登校班の子たちに付き添い通学路の点検を行う必要もあると思う。大地震がいつ起きてもおかしくなしので、1学期のうちに予告なし訓練を行っておきたい。
- △今年度は、校務分掌や行事等の主担当になる先生に偏りがあったように感じる。職員全体で学校経営に参加できるよう、来年度は学級担任の校務分掌をもう少し配慮してほしい。また学校行事の主担当が一人であるよりも、複数人で仕事を分担した方がその先生の負担軽減にもつながる。
- △常に来年度を見通しながら、「誰がどの分掌やどの委員会・クラブなど」引き継いでも良いように、一人ひとりが意識して動いた方がよい。「この案件については、この先生しかわからない」ということがないようにしていきたい。

学校経営について

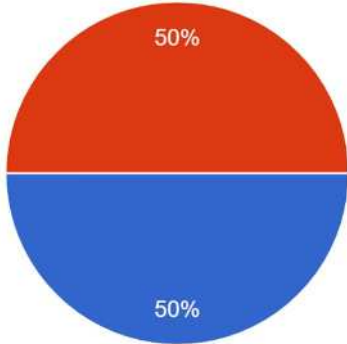
年間を通して、ランドデザインを意識した教育活動を実践することができた。また、情報セキュリティを含めた危機管理体制を充実させるとともに、全校児童及び全教職員にとってより良い居場所となるよう努めることができた。

今後の課題として、「業務改善」と「特別支援教育の更なる充実」の2点である。学校行事の進め方を再考するとともに、校務分掌の見直しを進めていきたい。また、通級指導も含めた特別支援教育及び、通常学級に在籍しているが特別な配慮を必要とする児童への支援について、専門的な知識を有する外部の方などから助言をいただく機会を設定するなど、研修を実施し、全教職員で理解を深める、全ての児童にとってより良い居場所となるよう努力していく必要がある。

2. 確かな学力

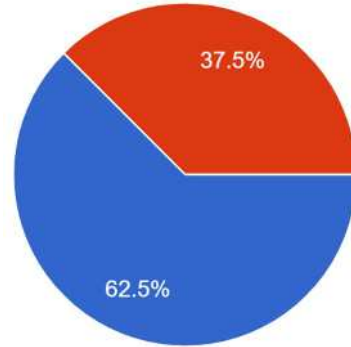
⑥基礎的な学習内容の確実な習得・定着に努めている。

7月



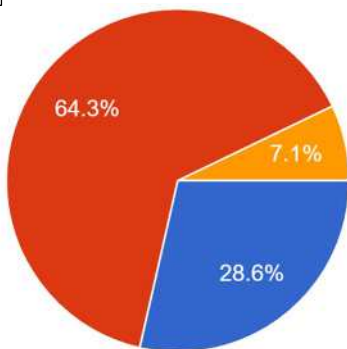
● そう思う
● ややそう思う
● あまりそう思わない
● そう思わない

2月



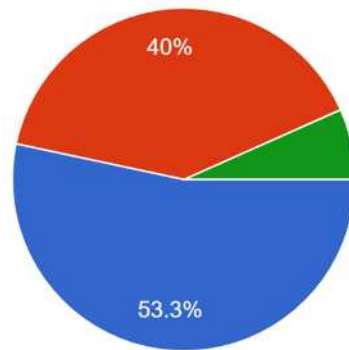
⑦ICTの積極的な活用などにより、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業づくりに取り組んでいる。

7月



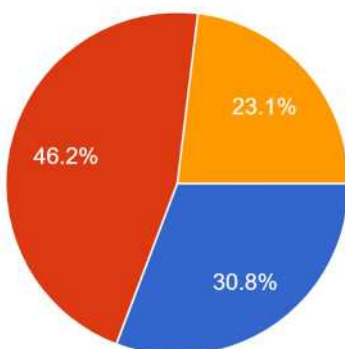
● そう思う
● ややそう思う
● あまりそう思わない
● そう思わない

2月



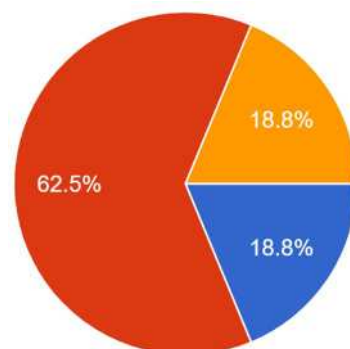
⑧「自学スタンバイ」の時間を有効に活用する等、家庭学習の習慣化に取り組んでいる。

7月



● そう思う
● ややそう思う
● あまりそう思わない
● そう思わない

2月



【記述（7月）】

- 言語能力、問題解決能力、情報活用能力など、生きる力の基盤となる能力の育成に向けて、自身の授業改善に努めています。
- 確かな学力を支える土台づくりを意識しながら支援することができた。
- 宿題については、児童のそれぞれの特性に寄り添いつつできる事、やり方を模索していきたい。
- 毎日は難しいが、授業と家庭学習の内容が有機的につながるよう、考えていきたい。
- ICTやDXの研究も大切だが、教師自身の思考が追いついていけないため、なかなか、児童に対しても活動内容が限定・制限されてしまい・・・申し訳なく思います。自分のスキルを高めるために、日々精進していきたいです。

【記述（2月）】

- ブロックで相談しながら、困り感のある児童に寄り添い、個別指導をしたり話を聞き取ったりすることができた。
- 保護者が家庭学習を振り返りやすくする工夫をしていただき、取り組みやすくなったと思います。
- △学力をつけるために、様々な有効的な学習方法を学んで、還元できるようにしたいです。そのために、外部の研究会にも参加していきたい。
- △⑧低学年の児童は、給食歯磨きに時間がかかり、自学スタンバイの時間がなかなかとれなかった。水曜日課は掃除終了後すぐに5校時が始まるので、慌ただしい。
- △家庭によって取り組みの差がある。懇談の時などにさらなる呼びかけをする必要がある。
- △本校は下校時刻が遅く、バス下校する児童の中には1時間近く乗車してはならない現状がある。帰宅後に家庭学習に取り組む十分な時間の確保が難しい部分があるのではないかと。
- △ICTを使った学習活動にも取り組んでいるが基礎的な読み書きにももう少し丁寧に取り組めると良かった。
- △校内研究の反省にも挙げられてましたが、家庭学習の習慣化については課題が残ります。引き続き、保護者を巻き込みながら取り組む方策が必要です。
- △ICTの活用により、「書くこと」が少なくなっているように感じます。書くことやICTのメリット・デメリットがそれぞれあると思います。効果的に使用できるように使用させる私達がスキルを学ばないといけないと感じています。
- △週予定を前の週の木曜日までに出すことはできませんか？特別支援の児童は、見通しを持つことが苦手であり、急な予定変更に対応することができません。また、授業変更もできるだけ少なくしていただきたいです。急な予定変更の場合は、授業中でも、教員間で共有できればと思います。
- △特別支援の児童が多い中、どこかで全職員で「特別支援教育」の学びを深めていきたい。特別支援学級の担任は、もちろんのこと全職員が「特別支援」の目線を持って、児童の指導に当たってほしい。
- △結果につながる取り組みにしたいが、まずは、努力すること(やってみること)が大切。

確かな学力について

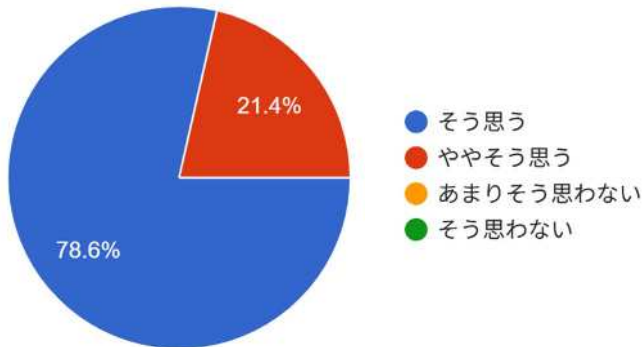
「**基礎基本の確実な定着**」と「**ICTの積極的な活用**」は全教職員が意識して取り組んでおり、良い評価であった。今後も子ども達の実態を的確に把握し、実態に即した指導を工夫していくことが大切である。

課題としては、「**家庭学習**」である。基礎基本を徹底するための学習と自分の興味関心に基づく学習を子ども達が主体的に取り組むことができるよう、まずは学習時間の確保や内容の選択、振り返りの日を活用した家庭との連携などに取り組み、本校の実態に合った家庭学習を習慣化することができるよう、中・長期的な視点で取り組んでいくことが必要である。

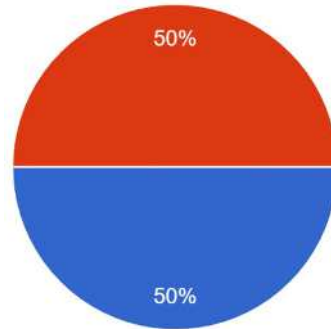
3. 豊かな心

⑨いじめの未然防止・早期発見・迅速な対応及び児童が相談しやすい関係づくりに努めている。

7月

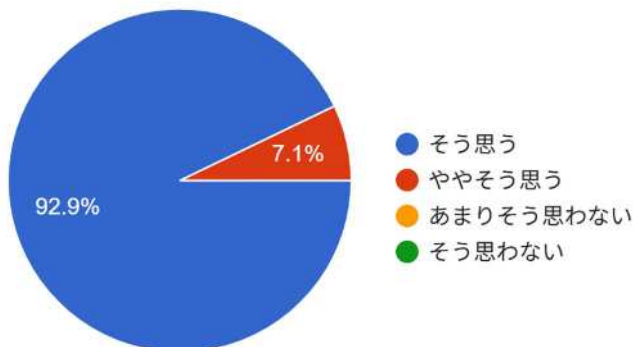


2月

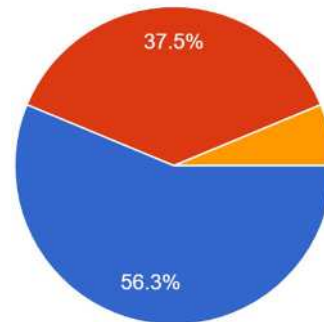


⑩児童との日常的な関わりの中で、「ほめて育てる」ことを心がけている。

7月



2月

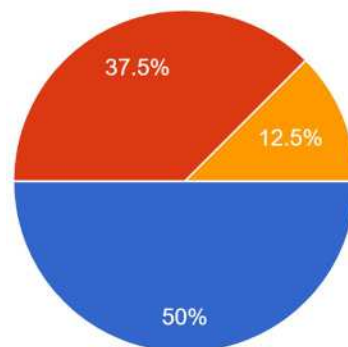


⑪読書活動や音楽活動など文化的な活動を通して、豊かな感性を養うことに取り組んでいる。

7月

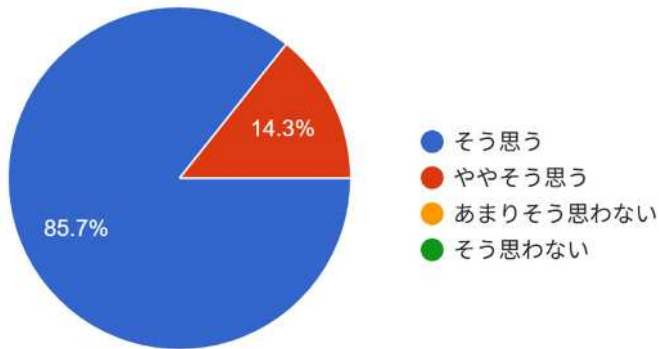


2月

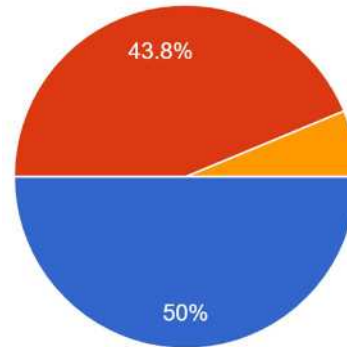


⑫学級経営及び日々の児童との関わりの中で、笑顔でのあいさつや児童間の適切な人間関係づくりに配慮している。

7月



2月



【記述（7月）】

- 児童との適切な距離感や、適切な言葉遣い、立ち振舞などには、今後も配慮していきます。
- 読書の楽しさ、大切さを児童に上手に伝えられるようにしていきたい。
- 児童の考えや気持ちを聞き取りながら、児童のよりよい生活を作っていきたいと考えてます。
- 情報モラルを含め、集団生活でのルールやマナーを守る意識が低い児童がいるので、継続した指導が必要。
- 「特別支援教育の充実」はとても大切だが、本校は、「インクルーシブ教育」の視点を持たなければいけないと思う。
- 私たちが子どもたちの人権を尊重した丁寧な言葉遣いや態度を心掛けていきたい。

【記述（2月）】

- △ここ数年、学校への信頼が揺らいでいるのがこの学校だと思います。様々な変化があり、保護者から反応が来ることは、仕方ないことだと思います。ですが、職員室で「あの子、あの子たち、頭がおかしい」「好きになれない」など、子どもに対してネガティブな感情を吐き続けていることは、教師として到底理解できません。人として、他を尊重する思いがなければ、子どもが振り向く訳もないと思います。一人ひとりの子どもを大切に努力、チーム学校として、子どもたちの教育にあたるべきだと思います。
- △⑩子どもは教師の鏡となるので私たち自身も挨拶や言葉づかいには気を付けていきたい。全校集会の様子から返事ができない児童が多く、日ごろからの指導を大切にしていきたい。
- △読書について、まずは手に取ることが大切なので、本に触れる機会を多く持たせたい。
- △「教師は子どもの鏡である」という言葉の通り、日常の中での教師一人ひとりの立ち居振る舞いや言葉遣い、態度などは、子どもたちにそのまま反映される。教壇に立つ身として常に高い意識をもっていたい。また、この意識を個人の資質に頼るだけでなく、教職員全体の共通認識として大切にしていきたい。
- △子どもたちとの良い関係性は作れている一方、褒めることが少なくなってきたため、日々の生活の中でいいところを見つけることを心掛けたい。
- △笑顔でのあいさつをまずは教員ができるように児童に対して心がけることができた。
- △子どもの豊かな心を育むために、教師も環境であり、モデルでもあることを今後も意識して努力したい。
- △隙間をうめる。というように日々を過ごしていますが、先生方との連携を取ることに難しさを感じています。忙しさの中、できるだけ、情報共有や連携を深めるように努力していきたいと考えております。
- △外部との連携をできるだけ取れるような体制を誰しもが知って置けると良いと思います。教師だけでは、どうにもできないこともたくさんあります。専門家に意見を聞いたり、助言してもらったりするのも一つだと考えます。
- △道徳教育の充実と共に、児童理解に関する情報を共有し、多くの職員で見守る体制が必要。

豊かな心について

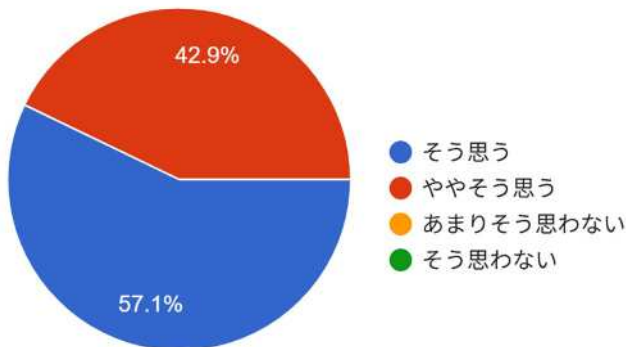
「いじめ防止を含めた児童との関係づくり」に関しては全教職員が意識して取り組み、全ての子ども達の豊かな心の育成に尽力している成果が表れている。

課題としては「読書活動と音楽活動の充実」、「学級経営の充実」、「ほめて育てる教育」を更に推進していくことである。文化的な活動やたてわり活動、体験活動を推進し、豊かな心を育てていくとともに、全ての学校生活の基本となる学級づくりに力を入れ、児童全員にとって「安心できる学校」、「明日も来たくなる学校」になるよう、「ほめて育てる教育」を中心に全教職員の共通理解の下、取り組んでいく必要がある。

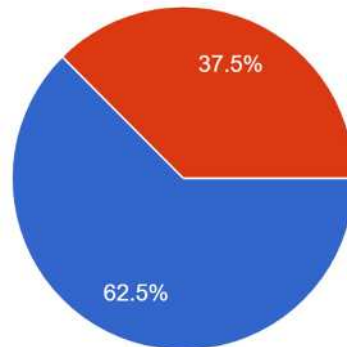
4. 健やかな体

⑬歯磨き指導、食育指導、保健指導を通して、健康でたくましい心や体を育てることに努めている。

7月

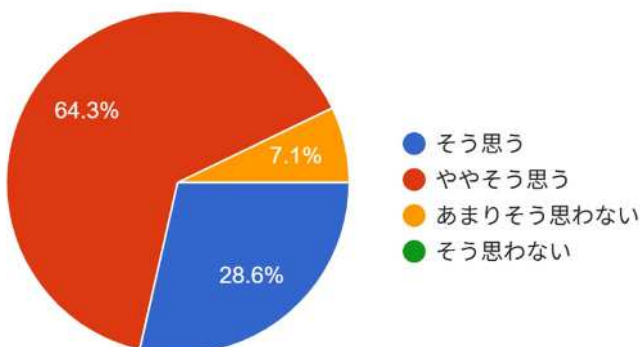


2月

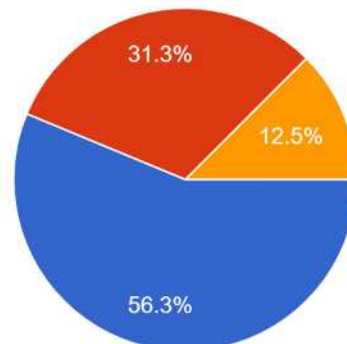


⑭体育の授業、休み時間や放課後等の遊びの場面において、日常的な運動習慣の定着に取り組んでいる。

7月

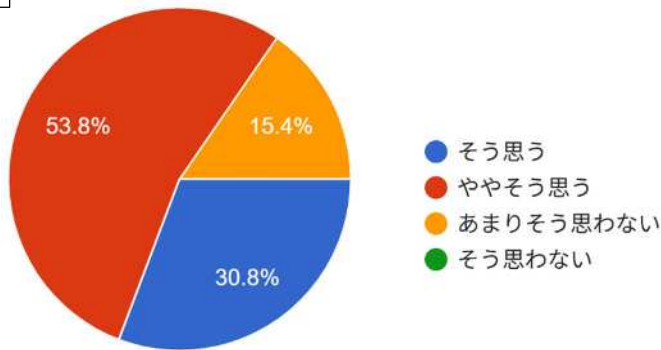


2月

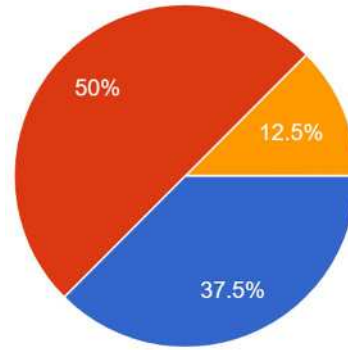


⑭家庭と連携し、基本的な生活習慣の定着に努めている。

7月



2月



【記述（7月）】

- 特別なこだわりが特性としてある低学年児童に、根気よく、コツコツと指導を積み重ねて、社会生活に必要な生活習慣を身につけさせていきたい。
- 全学年で、インターネットや SNS の活用の仕方について専門家を招いて授業を行ったほうがよいと思う。
- 健康観察や児童の様子から、夜遅くまで起きていたとか朝食を少ししか食べていないと聞く時がある。連携はなかなか難しいが、今後取組を考えていく必要があると思う。

【記述（2月）】

- △ゲーム依存、ネット依存は、年々増してきていると思う。「ノーネットノーゲームの取り組み」の際には、子どもたちの多くは努力しているが、その後の指導もしていきたい。
- △⑭身体を動かすことは大切であるが、放課後の整列時間が守れなくなっている。しっかり並んで待っている子どもたちもいるので、指導を徹底していきたい。
- △基本的な生活習慣の確立並びに、危機管理に関する連携が大切。

健やかな体について

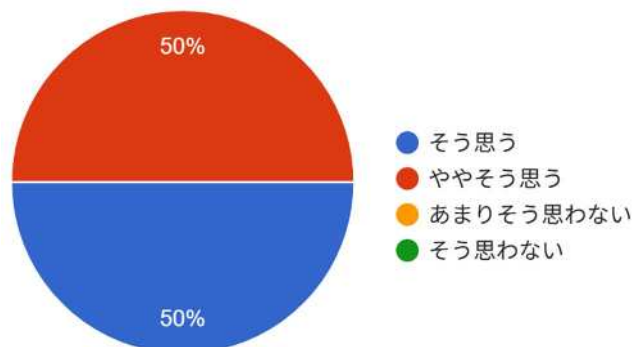
「**歯磨き・食育・保健指導**」については年間を通して、計画的に各学年でしっかりと指導がなされ成果を上げることができた。今後も健やかな体の育成に向けて継続していく必要がある。

課題としては「**家庭での基本的な生活習慣の定着**」と「**日常的な運動習慣の定着**」が挙げられる。様々な家庭環境があるが、子ども達の健やかな発育のために、全教職員で根気強く子ども達への指導助言と家庭への啓発を続けていく必要がある。また、たてわり班を活用した「**全校外遊びの日**」などを実施し、運動機会の確保を図っていきたい。

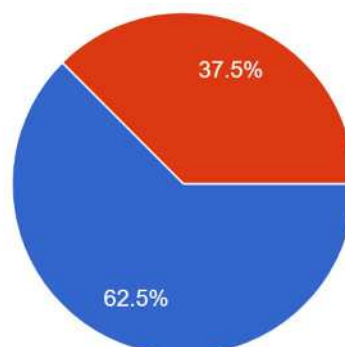
5. 地域とともに子どもを育てる教育

⑩地域人材・資源を活用し、地域のよさを生かした学習活動を積極的に取り組んでいる。

7月

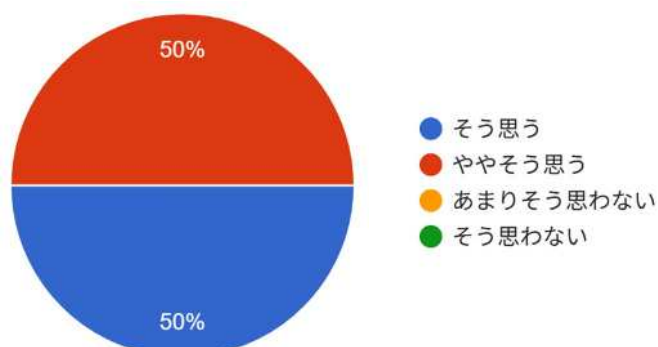


2月

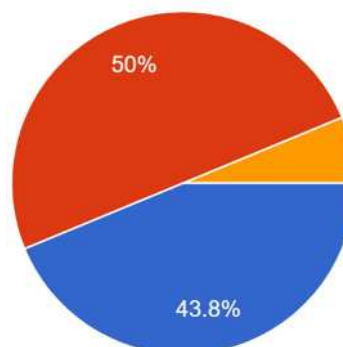


⑪地域の方々や外部講師などと連携し、お互いのよさを認め合い、豊かな心の育成を目指した取り組みを進めている。

7月



2月



【記述（7月）】

○太鼓クラブの服部さんには、毎年、児童の太鼓指導を熱心に行っていただき、「地域の伝統文化を地域の方が伝承して下さる」という、貴重な体験を提供して下さることにとっても感謝している。

○家庭科ボランティアなど積極的に地域に呼びかけ、地域を巻き込んでいくことができてよかった。

○総合的な学習の時間等で活用していくことがとてもやりやすいと思う。

【記述（2月）】

○5年生のお米作りや福祉講話、いじめ予防授業など、地域の方に参画していただく中で、充実した学習につながったのではないかと。

○地域の方も町探検等では快く受け入れてくれて、地域学習を進めることができた。普段の生活の中でも目が向いていくといいと思う。

○積極的に地域の人材を活用しようと取り組んでいると感じます。今後も、地域の方々に積極的にアナウンスしていくことが大事なのではと感じます。

○サポートティーチャーの活用が昨年より増え、良かったと思います。引き続き継続をお願いし、来年度から、笛川学園としてどうなるか分かりませんが、放課後の見守りなど、も入れてもらえると良いなと感じました。

△地域とのより一層、綿密な関係を結び、地域に誇れる学校にしていきたい。特に、外部講師を積極的に招聘していきたい。

地域とともに子どもを育てる教育について

どちらの項目も良い評価であった。笛川地区には**豊かな地域資源**があり、**素晴らしい地域人材**がいる。これらの資源や人材を生活科や総合的な学習の時間を中心に、さらに活用していくことで、「地域を愛し、地域に誇りをもった子ども」が育っていくと思う。今後もサポートティーチャーはもちろん、様々な外部講師を積極的に授業に取り入れていくことで、**本校の強みを発揮していく**ことができると考える。

【課題改善のための取り組み内容や改善方法】

1 学校経営

- ・生徒指導会議や特別支援全体会議等の必要不可欠な会議と、確認事項のみの代替可能な会議を精査し、必要な会議には十分な時間をとり、重要度が低い会議は削減や時間短縮していく。
- ・特別支援教育に関し、年度初めに全教職員で学校としての方針をしっかりと確認し、特別支援学級担任と交流学級担任、教務主任、特別支援教育支援員等の関係者で支援体制をしっかりと確認していく。また、児童の状況の変化に応じて随時修正していく。
- ・特別支援学校のセンター的機能や包括支援等を効果的に活用し、適時適切なアドバイスをいただき支援を進めていく。
- ・特別支援教育に関わる研修や各研修会に参加した職員の還流研修を行う時間を確保し、全教職員の資質能力の向上に努めていく。
- ・低学年児童の下校時にスクールバスを運行する。
- ・学期に1回程度、登校班の子たちに付き添い通学路の点検を実施することや避難訓練を計画的に(予告なし避難訓練を1学期に実施するなど)実施する。

2 確かな学力

- ・児童が主体的に学びを選択する授業や対話的な学び、ICTの効果的な活用の研究を更に深めていく。
- ・年度当初に自学スタンバイやマイノートの使い方をしっかりと全教職員で確認し、授業と家庭学習の有機的な結びつきを図っていく。
- ・「わかる授業」、「できる授業」を実践し、学ぶことの楽しさを全ての児童に味わせるとともに、個別指導や複数教員による授業を展開し、基礎基本の確実な習得を図る。
- ・笛川PBLや総合的な学習の時間を中心に、自ら問いを立て、自ら課題解決に向けて試行錯誤し、他者と協働しながら学びを深めていく探究的な学習を重視した実践を行う。

3 豊かな心

- ・あいさつや返事、笑顔での対応など、教師が率先垂範することで、明るく温かい学校づくりを進めていく。
- ・読書活動の充実に向けて、家読や教師のおすすめの本紹介、ボランティアによる朝の読み聞かせなどの取組を推進していく。
- ・たてわり活動を活性化するために、たてわり委員会を設置し、たてわり班での清掃活動やたてわり班遊びなどを計画的に実施していくことを検討する。
- ・福祉講話の実施やいじめ予防教室、情報モラル学習会、世代間ふれあい交流会など、外部機関や地域の教育人材を活用し豊かな心の醸成に努めていく。

4 健やかな体

- ・情報モラル学習会を児童のみならず、保護者も交えて実施するとともに、「ノーネット・ノーゲームの取組」を中学部のテスト期間に合わせて実施することを検討していく。
- ・歯磨き指導を今後も全学年を対象に実施していく。
- ・中休みの「体カアップタイム」を年間を通して計画的に実施していく。

5 地域とともに子どもを育てる教育

- ・本校には豊かな教育資源と教育人材がある。その強みを今後も十分に発揮していく。来年度は、前庭にある「ブドウ園」を総合的な学習の時間に活用し、保護者に講師を依頼し、3学年で「ブドウ栽培体験」を実施していく。
- ・学校としてのニーズを把握し、新たな分野でのサポートティーチャーを募集することで、地域との連携をさらに深めていく。
- ・笛川PBLにおいても、地域の教育資源や教育人材を有効に活用していく。

6 その他

- ・保護者と教職員間の共通理解を深めていくために、子ども達の心豊かな成長を願う共通の思いを基本に、慎重に案していく必要がある。
- ・子ども達の自主性を育むために、生徒指導主任から月の生徒指導目標を掲示するのではなく、学級から学校の課題を出し合い、代表委員会で話し合っ決めていくことがよいと思う。
- ・委員会活動やクラブ活動について、持続可能な内容にしていく必要がある。特に委員会活動については、より良い学校生活、より豊かな学校生活を築くための自主的・自治的な活動としていく必要がある。。委員会活動の学びが、笛川 PBL の素地になればいいと思います。
- ・笛川学園の前期課程(1～4年生)の最大の目標は「基礎的な学力を確実に身に付ける」ことである。そのためには、学校における「支援体制」の工夫が必要である。国語や算数を中心に支援体制(TT体制)をの確立していく必要がある。